

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 執筆要領

(平成 28 年 7 月 15 日 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会)

(平成 30 年 9 月 10 日 高度教養教育・学生支援機構 紀要・出版委員会)

1. 原稿作成にあたっては、ワープロにより作成し、以下の点に留意すること。
 - 1) 原稿の長さは原則として、図表や写真等を含め、本誌専用の原稿作成フォーマット（日本語の場合、1 ページが 24 字×40 行の横書き 2 段組）*で最大 14 ページとする。
 - 2) 使用するフォントは、和文については MS 明朝、半角英数字については Times New Roman とする。数字には、すべて半角文字を用いることとする。また、文字のサイズ及びスタイルについては、以下のとおりとする。

・論文等のタイトル	: 18pt, 太字
・論文等のサブタイトル	: 14pt
・要旨	: 9pt
・章のタイトル	: 11pt, 太字
・節のタイトル	: 10pt, 太字
・項のタイトル	: 10pt
・本文	: 10pt
・図表、画像のタイトル	: 10pt, 太字
・謝辞、注及び参考文献の見出し	: 10pt, 太字
・謝辞、注及び参考文献	: 9pt
 - 3) 原稿は A4 判の用紙に上記フォーマットで作成する。図表・画像が 1 段組になる場合は、その部分を横書き 1 段組にしてもかまわない。ただし、その場合でも図表等を含め、最大 14 ページ以内とする。なお、文章作成においては、カンマ (,) とピリオド (.) の句読点方式を用いること。
 - 4) 原稿には所定の位置に要旨（和文の場合は 400 字、欧文の場合は 300 語）を記載すること。
 - 5) 図表、画像はそのまま印刷できる明瞭なものとし、簡潔な説明を加える。刷り上がりは白黒である（カラー印刷やトレーシングを必要とするものは不可）。
 - 6) 表には上部に、図及び画像には下部に、それぞれタイトルを付す。表、図及び画像自体、及びタイトルとも中央揃えとする。また、表、図及び画像の上下には空行を 1 行挿入する。
 - 7) 章などのタイトルは、ポイントシステムによって記載し、項までとする。

(例) 第 1 章	→1.
第 1 章第 2 節	→1.2
第 1 章第 2 節第 3 項	→1.2.3

また、新しい章または新しい節を始める場合には、その前に空行を 1 行挿入する。
 - 8) 原稿の執筆者名及び所属は空欄とし、掲載希望分類名及び原稿タイトル、要旨を記した

後、直ちに本文を記すものとする。

2. 引用文献の提示方法は、原則として次の形式に従うこと。

1) 補注は、当該箇所の上肩に上付き文字で、「¹⁾」、「²⁾」のように番号で示し、本文のあとに「注」と見出しを付けて番号順にまとめて記載する。

2) 引用注は、該当する文章中に（著者の姓_刊行年:始頁-終頁）として記載する（「_」は半角スペースを、「:」は半角コロンを、「-」は半角ハイフンをそれぞれあらわす）。また、引用文献を2つ以上列挙する場合は、半角セミコロン (;) で区切る。

(例) (山本 1989: 56), (齋藤 1990b: 145-176)

(佐藤 1995: 23-25; 鈴木 1997: 145-156; 田中 2007: 120-124)

3) 文献が共著の場合は、「第1著者・第2著者」の順に記載し、ナカグロでつなぐ。3名以上の場合は、「第1著者ほか」として「ほか」をつける。編書の場合は、「編者名編」として「編」を入れる。監修の場合は、「監修者名監修」として「監修」を入れる。英文による3名以上の共著の場合は、「et al.」を、一人の編書の場合は「ed.」、2名以上の編書のときは「eds.」をつける。

(例) 「…が明らかにされている (山田・佐藤編 1990: 165-169).」

4) 翻訳書、翻訳論文の場合は、「原著者の姓_原書の刊行年=訳書の刊行年」を原則とし、頁数の記載にあたっては、訳書の頁を用いる場合は、「原著者の姓_原書の刊行年=訳書の刊行年:始頁-終頁」、原書を参照して独自に訳出した場合には、「原著者の姓_原書の刊行年:始頁-終頁」とする。

(例) 「…と論じている (Smith 1930=1996: 51-64).」

3. 参考・引用文献の記載は、原則として次の形式に従うこと。

1) 引用の根拠となる文献は、補注のあとに、「参考文献」と見出しを付け、和文文献、欧文文献などの区別をせず、著者姓のアルファベット順、同一著者の場合は刊行年順、同一刊行年の場合は a, b, c を刊行年に付記し、記載する（以下の例などで、和文の場合は頁表記の部分を除き括弧や句読点はすべて全角、欧文の場合の「_」は半角スペースを、「.」は半角ピリオドを、「,」は半角コンマを、「:」は半角コロンを、「-」は半角ハイフンをそれぞれあらわす）。また、それぞれの文献で2行目以降は全角2文字分字下げすること。

①図書の場合：

和書：著者姓名（刊行年）『書名』出版社名。

(例) 青葉太郎（2012）『初年次教育の課題』片平出版。

洋書：著者姓_著者名頭文字_(刊行年)_書名_出版社所在地名:_出版社名。

(例) Field, J. (2014) *Learning Support in Higher Education*, London: TU Press.

(例) Jones, K. (2014) *Learning Environment in Higher Education: Service-Learning for Citizenship*, London: TU Press. (=2016, 宮城政宗訳)

『高等教育の学習環境』仙台出版.)

② 図書の一部の場合：

和書：著者姓名（刊行年）「章の見出し」，編者名『書名』出版社名，pp._始頁-終頁.

（例）伊達杜広・青葉太郎（2003）「大学における学習支援」，川内菫子編『大学教育とライティング教育』仙台出版，pp._54-68.

洋書：著者姓,_著者名頭文字._(刊行年)_“章の見出し”,_編者名頭文字._編者姓_ed. 書名,_出版社所在地名:_出版社名,_pp._始頁-終頁.

（例）Field,_J._and_Hill,_D._(1998)_“Academic Writing Education for Undergraduate Students”,_M._Smith_ed.,_Academic Writing, Chicago: Ac Press, pp._66-74.

③ 雑誌や紀要などに掲載された論文などの場合：

和雑誌など：著者姓名（刊行年）「論文名」，『雑誌名など』巻数号数，pp. 始頁-終頁.

（例）江田緑（2005）「大学におけるライティング教育の課題」，『東北大学教育研究』第5号，pp._34-42.

洋雑誌など：著者姓,_著者名頭文字._(刊行年)_“論文名”,_雑誌名など,_巻数号数,pp. 始頁-終頁.

（例）Green,_M._(2008)_“Academic Writing in Higher Education”,_Journal of Writing Education,_Vol. 7,_pp.8-16.

2) ウェブサイト，ウェブページ，ブログの場合：

著者姓名（刊行年）「ウェブページの題名など」，ウェブサイトの名称など，入手先 URL（閲覧日付）.

（例）川内菫子（2016）「ライティング教育におけるピア・サポートの効果と課題」，東北教育政策研究所『東北教育政策研究レビュー』vol. 3, pp.120-138, <http://www.thk-univ.research.ac.jp/pdf>（閲覧 2017/1/20）.

（例）文部科学省（2013）「国立大学改革について」，http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/.htm（閲覧 2017/11/3）.

3) 新聞記事の場合：

著者姓名（刊行年）「記事の題名」，『新聞名』（日付，朝刊・夕刊などの別_版），掲載頁.

（例）宮城政宗（2016）「東北大学附属図書館における学習支援の取組」，『東北新聞』（3月26日，朝刊 宮城全県版），26面.

（例）東北新聞（2017）「大学図書館」『東北新聞』（4月6日，夕刊 地方版），18面

4. 参考・引用文献の記載が，上記の形式によることが，専門分野の性格上困難な場合には，当該分野における標準的な形式によることができる。この場合，「標準的な形

式」の拠り所とした学会誌等を「投稿票」の所定欄に記載して届け出ること。

5. 謝辞を入れる場合には、本文の後、補注の前に入れる。

* 原稿作成フォーマットについては、投稿予定のエントリーを行った方に送付するとともに、原稿募集のホームページにも掲載されている。